

「永い間見失っていた祖先や同胞の姿を見出し、その環境の源を遡る時、吾等は吾等自身の行手に目覚める」。昭和初期に刊行された民俗資料を復刻、現代社会を再考する一助となる文献集。

日本民俗選集

第一回全7巻

小川直之 編・解説



クレス出版

日本民俗選集 第一回全7巻 小川 直之 編・解説

- 第1巻 日本民俗学論考 (中山太郎著)、史譚と民俗 (本山桂川著)
定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-463-5
- 第2巻 民俗断篇 (西村真次著)、民俗と建築 (今和次郎著)
定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-464-2
- 第3巻 島国の唄と踊 (田辺尚雄著)、絵文字及源始文字 (田崎仁義著)
定価13,000円(税別) ISBN978-4-87733-465-9
- 第4巻 信仰と迷信 (富士川游著)、民俗怪異篇 (磯清著)
定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-466-6
- 第5巻 満洲・支那の習俗 (永尾龍造著)、東北の土俗 (日本放送協会東北支部編)
定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-467-3
- 第6巻 江戸情調 (笹川種郎著)、かくれさと雑考 (上林豊明著)
定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-468-0
- 第7巻 年中行事 (北野博美著) 定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-469-7

A5判/上製クロス装 定価89,000円(税別)
平成21年3月末日刊行 ISBN978-4-87733-470-3 C3339

- 1 南方文化講座 歴史篇
- 2 三省堂南方文化講座刊行係編/昭和18年
- 3 三省堂南方文化講座刊行係編/昭和19年
- 4 三省堂南方文化講座刊行係編/昭和19年
- 5 大南洋 文化と農業
- 6 太平洋協同会編/昭和16年
- 7 太平洋協同会編/昭和19年
- 8 ニューカレドニア・その周辺
- 9 太平洋協同会編/昭和19年
- 10 松原晩香著/昭和18年
- 11 南方民族図譜
- 12 厚生省研究所人工民族部編/昭和19年
- 13 東亜経済懇談会編/昭和19年
- 14 国策研究会著/昭和18年
- 15 太平洋民族誌
- 16 松岡静雄著/大正14年
- 17 ミクロネシア民族誌
- 18 松岡静雄著/昭和2年
- 19 インドネシアの民族医学
- 20 清野謙次著/昭和18年
- 21 海南島黎族の社会組織
- 22 岡田謙著/昭和19年
- 23 海南島黎族の経済組織
- 24 尾高邦雄著/昭和19年
- 25 民族調査資料 第一輯/第五輯
- 26 海南海軍特務部政務局/昭和17年
- 27 マライシアに於ける稲米儀礼
- 28 宇野円空著/昭和19年
- 29 第二回全8巻 揃定価一一〇、〇〇〇円
- 30 南方文化講座 歴史篇
- 31 竹越与三郎著/明治43年
- 32 南洋風土記
- 33 安藤喜一郎著/昭和8年
- 34 バタ族の社会と生活
- 35 井上吉次郎著/昭和17年
- 36 ジャワ社会の研究
- 37 松浦靖著/昭和19年
- 38 東印度の文化
- 39 齊藤正雄著/昭和15年
- 40 比律賓民族誌
- 41 三吉朋十著/昭和17年
- 42 比律賓の宗教と文化
- 43 三吉朋十著/昭和17年
- 44 比律賓の土俗
- 45 三吉朋十著/昭和17年
- 46 仲原善徳著/昭和17年
- 47 南方民族の婚姻
- 48 増田福太郎著/昭和17年
- 49 台湾の宗教
- 50 増田福太郎著/昭和14年
- 51 原始刑法の探求
- 52 増田福太郎著/昭和19年
- 53 東亜民族要誌資料 第一輯/第四輯
- 54 帝国学士院東亜諸民族調査室編/昭和19年
- 55 東亜民族名集
- 56 帝国学士院編/昭和19年
- 57 第三回全8巻 揃定価一〇八、〇〇〇円
- 58 蒙古地誌 総論、史略、地理
- 59 蒙古地誌 行政
- 60 蒙古地誌 殖産興業(1)
- 61 蒙古地誌 殖産興業(2)
- 62 蒙古地誌 運輸交通、宗教、教育、風俗
- 63 蒙古地誌 各旗通志、都邑概況、結論
- 64 柏原孝久・浜田純一共著/大正8年
- 65 第四回全6巻 揃定価一一四、〇〇〇円
- 66 満洲民族学会会報
- 67 満洲民族学会編/昭和18、19年
- 68 満洲国道院卍字会の概要
- 69 小竹一郎著/昭和18年
- 70 満洲史観
- 71 黒田源次著/昭和18年
- 72 人口統計より見たる満洲国の緑族複合状態
- 73 宮川善造著/昭和15年
- 74 満洲事情案内所編/昭和15年
- 75 満洲民俗考
- 76 満蒙民族誌
- 77 満鉄経済調査会編/昭和11年
- 78 満洲宗教誌
- 79 満洲風土記 上巻
- 80 満洲日報社編/昭和19年
- 81 満洲日報社編 中巻
- 82 満洲日報社編/昭和19年
- 83 綏遠に於ける蒙古民族—生活と習俗—
- 84 内藤潮邦著/昭和18年
- 85 満洲に於ける鄂倫春族の研究
- 86 治安部参謀司調査課編/昭和14年
- 87 ソロン族の社会
- 88 上牧瀬三郎著/昭和15年
- 89 中支に於ける民間信仰の実情
- 90 興亜院華中連絡部編/昭和17年
- 91 北京回民小本借貸に就いて
- 92 小林宗三郎著/昭和16年
- 93 西北羊毛貿易と回教徒の役割
- 94 幾志直方著/昭和15年
- 95 満洲国の回教調査資料
- 96 山本登著/昭和16年
- 97 北支那回教事情
- 98 満鉄北支経済調査所/昭和15年
- 99 第五回全8巻 揃定価九〇、〇〇〇円

アジア・太平洋地域 民族誌選集

全36巻

第一回配本品切 全30巻
揃定価四二二、〇〇〇円(税別)

山下晋司・中生勝美・伊藤亞人・中村 淳 編

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 http://www.kress-jp.com/

●書店名

「日本民俗選集」第一回全七巻の発刊にあたって、この選集刊行の意義について述べておきたい。選集の内容は、昭和二、三年に東京日本橋の磯部甲陽堂から刊行された「日本民俗叢書」を中心として、これに五本を加えて十三本からなる。日本民俗叢書は、本山桂川の編さんになるもので、大正時代末にその陣容が決められ、昭和になって出版された。叢書は十冊が刊行され、この選集に収めたほかに永尾龍造「支那の民俗」、明石染人「染織史考」の二本があるが、これらはすでに復刻版が出版されているため、今回の選集からは除いた。

「日本民俗叢書」八本に加えた五本は、佐々木喜善のコーディネイトによって仙台放送局が放送した「東北土俗講座」をまとめた「東北の土俗」(昭和五年)、この当時、積極的な研究活動を行っていた中山太郎の「日本民俗学論考」(昭和八年)、本山桂川の「史譚と民俗」(昭和九年)、北野博美の「年中行事」(昭和八十年)、そして、東亜同文書院卒業後、中国で民俗研究を始め、満鉄奨学資金財団や日本の外務省から援助を受けて研究を進めた永尾龍造の「満州・支那の習俗」(昭和十三年)である。

各書冊がもつ今日的な位置付けや有用性は各巻の解説に譲り、ここでは全体を概観しておく、この選集の書冊からは、昭和初期には多様な民俗学が存在したことがうかがえる。これらの書冊の中には、民俗学の方法や対象が体系化されていくなかで、忘れられたものがあるが、たとえば西村貞治「民俗断篇」は、東京の水上生活者の実態や「群集心理」という見方からの御陰参りの分析、ワニの神話の比較研究などを収めている。今和次郎「民俗と建築」は、各地でのフィールドワークの途次に見聞した住まいや生活用具などのスケッチ、農家の土間の比較研究、関東大震災後の仮住宅・バラックの実態を多くのスケッチを含めて叙述している。田邊尚雄「鳥国の唄と踊」は、鳥の文化という視点に基づき、伊豆大島、佐渡、樺太、琉球、台湾における大正時代末の、唄を中心とする所謂民俗芸能の実態調査の足取りと成果である。北野博美「年中行事」は、逐次刊行物の形式で日本の年中行事に関する諸資料の集積が試みられたもので、図絵類なども含んでいる。

日本人の生活様式や心情は、グローバルな市場経済主義の浸透の中で、急速にしかも大きく変容、あるいは変化し、民俗学には現代社会へ対応するための再編が求められている。その方法の一つが、昭和初期に存在した多様な民俗学の再検討であり、そのために必要となるのがこうした選集の刊行である。ここに収めた書冊はいずれも出版から七十年以上が経ち、まとまったかたちでの閲覧や入手は困難となっている。

第1巻「日本民俗学論考」

二、箸を神體として祭つた社

「新撰姓氏録」を讀むと、左京神別の竹田川邊連の條に「仁德天皇御世、大和國十市郡羽坂川之邊、有竹田神社、因以爲氏神、同居住焉、綠竹大美、供御箸竹、因茲、賜竹田川邊連」とある(卷一三)。これに由れば我國の箸は、竹に限られてゐたやうに見えるが、これも川邊連の出自に有難味を附けたための家乘であるので、どこまで史實であるか判然しない。全體、支那でも箸の字(正しくは筋と書いたと云う)は竹冠りであるから、古くから竹を用ゐたことと思ふ。狩谷掖齋がその著「箋注和名抄」の箸の條に於いて「禮記」の曲禮を引用して、桃は箸と同じであるから、支那でも木を箸に用ゐたことあるのを否定して、木は手の誤りで挑であると云うたのは違見である。我國では竹でも木でも茅でも、手當り次第に用ゐたやうであるが、これに就いては追々に記述する。

我國には箸を神體として祭つた神社がある。奈良縣磯城郡耳成村大字東竹田の竹田神社(祭神天火明命)は、延喜式内の古社であるが、社傳によれば前載の姓氏録の故事により、箸を以て神體としてゐる(大和志料卷下)岡山縣兒島郡本莊村大字通生の醫天山磐若院(眞言宗)神宮寺の舊記に、此の地に延暦年中坂上田村麻呂が、軍卒を擲ひし銚子と箸とを祭り、一を銚子明神、一を箸明神と稱したとある(見嶋郡誌)。これだけでは、何の爲めに神を祭つたのか、理由が判然せぬが、恐らくその理由が忘却されたのであらう。福島縣大沼郡旭村大字寺入の金跨神社は嘉元年中の創建であるが、國幣社伊佐須美神社の寶物に上代の火箸なりとて、鐵杖の首の兩岐なのがあつたのを移して神體とした、長さ一尺九寸ほどある(新編會津風土記卷七八)。これも祭祀の理由が餘り判然せ

第7巻「年中行事」

増補日本年中行事大全

【内容】本書の命題も區々になつてゐる。外題(題簽)には、「大日本年中行事」表紙裏には、「増補日本年中行事大全」内題には、「増補大日本年中行事大全」柱折目の所には、「諸國年中行事」前題、文化三年上本(「諸國年中行事大成」(速水春曉齋遺稿 森川と稱するもの)の同一の書であるに拘らず、此書には森川保之畫圖とし、又別項には「日本繪巻川清春畫」ともしてあるのは、驚る者に奇異の感を起させる。

續江戸砂子

菊岡沾涼著 五巻 前出、エの部「江戸砂子」参照。

俗説歳事傳

【内容】歳事傳とあるけれども、傳永などところは毫も認められない。「荆楚歲時紀」を俗體にしたやうな書である。見たところ、「下學集」の中の第二時節門をそのまま抄出したやうな内容を有ち、俳人常用の季寄書に類したものであるが、全然そのみを目標とせず、語彙の解説を主とし、自然よりも人類の義解に力を入れてゐるものやうである。著者の

署名がないので分らぬが、或は筆者大塚武休なるものの編撰かとも見られる。

タート

大槐秘抄

【内容】「群書備考」に、伊勢貞丈の武器考證を引いて曰、「大槐秘抄、九條大相國伊通公意見進三二條院」と。また「群書一覽」には、簡略ながら其要目をあげて、「年中臨時等の儀式の時帝王の御心つかはせたまふべきやうをしるされたり。九條大相國伊通公二條院へ獻せられし意見の書なり。奥に歌あり、おもふことかきあつめたる ことのはに くだしをはてよ 風にちらすな

大祭祀日義解

【内容】前出、サの部「歳事行事」の内容と略同一にして、而も前者よりも通俗向きに作られてゐる。著者内藤耻叟は名古屋の人。漢學の臭味を多分にもちたる雜學者。本書の他、明

日本民俗選集 第一回全7巻

第1巻

日本民俗学論考

中山太郎著/昭和8年/一誠社 【内容】祭祀の起原と民俗、民俗の改廃が生む特殊の犯罪、山路の笛、宝探し物語、農業暦、箸の話、百合若伝説異考、文使ひ伝説、離詞の研究、紅血塚から皿屋敷へ、童貞受胎考、絵馬源流考、獅子舞雜考、江戸時代の農民階級と民俗、神代史の構成と婚姻相、女護島、埴輪の原始形態と民俗、六所神異考 史譚と民俗

本山桂川著/昭和9年/一誠社

【内容】振遠隊遺聞、象の江戸上り、くり舟の行方、護国正月点景、伊豆の島々を巡りて、天下平安・異国降伏、黄金を探る、御蔵島の話、民俗上より見たる老岐・平戸及び長崎、南の島に旅して、八重山渡海、頭で物運ぶ人々、大象道中記、老岐島の神功皇后伝説

第2巻

民俗断篇

西村貞次著/昭和2年/磯部甲陽堂

【内容】東京の水上生活、群衆心理——御蔭参り、江戸時代の遊山舟、今も昔も変らぬ女の務め、迷宮と迷路、クリスマスの由来、原始時代の曆、各民族の正月、朝鮮の婦人、朝鮮児童の頭、アイヌの歌謡と舞踊、鱷の神話、白雲と太陽、日の女神月の男神

民俗と建築

今和次郎著/昭和2年/磯部甲陽堂

【内容】ある村のしらべ、途上採集、田舎の工作物、震災バラックの回顧

第3巻

鳥国の唄と踊

田邊尚雄著/昭和2年/磯部甲陽堂

【内容】伊豆大島の民謡、佐渡の古楽舞、樺太土人の音楽、歌と踊の国——琉球、台湾蕃人の音楽と踊

繪文字及源始文字

田崎仁義著/昭和3年/磯部甲陽堂

【内容】意思を表示伝達するに用ひらるる三様の方式、或る物体に作為を施して意思の表示伝達に充つる方法、或る物体の上に書き表して意思の表示伝達に充つる方法、岩刻繪文字、繪文字総説、繪文字に紀されたる諸種の紀錄、北米ダコタ族の「冬紀」ウイントン・カウントと台湾蕃人の祭事曆、楔形文字、埃及古代文字及びピロゼッタートン

第4巻

信仰と迷信

富士川游著/昭和3年/磯部甲陽堂

【内容】身体、妊娠及び産産、育兒、疾病、療病、相法、宗教、天文、曆及方位

民俗怪異篇

磯部清著/昭和2年/磯部甲陽堂

【内容】馬の災と馬の怪、城の主、猫、灯の占、狼の噂、落語に存在する怪談

第5巻

満洲・支那の習俗

永尾龍造著/昭和13年/滿鉄社員會

【内容】子授けの祈り、小兒と魔鬼、魔除けとしての小兒の首飾、乳名に就いて、籠祭り、臘八粥、雨乞ひ・日乞ひの話、繕牌、開房の習慣、処女性を示す喜帕の話

東北の土俗

日本放送協會東北支那編/昭和5年/三元社

【内容】東北土俗講座開講に就て(佐々木喜善)、屋内の神の話(佐々木喜善)、網地島のお山猫(三原良吉)、二老人の話(佐々木喜善)、南部恐山の話(中道等)、秋田三吉さん(佐々木喜善)、下北半島の鹿と狼(中道等)、誘拐民謡(刈田仁)、子供遊戯神の話(佐々木喜善)、東北と郷土研究(柳田國男)、こけし這子に就て(天江富弥)、村の家(中川善之助)、東北は土俗学の宝庫(中山太郎)、民俗芸術家としての東北人(森口多里)、東北文学と民俗学との交渉(折口信夫)、平内半島の民俗と伝説(中道等)、言語と土俗(金田一京助)、巫女と座頭(金田一京助)、書かない手紙(藤原非想庵)、農民の文学(佐々木喜善)

第6巻

江戸情調

笹川種郎著/昭和2年/磯部甲陽堂

【内容】三百年間、江戸時代の東海道、隅田川、江戸の俵、江戸年中行事

かくれさと雑考(売女値段考)

上林豊明著/昭和2年/磯部甲陽堂

【内容】売笑の経済關係、売笑婦の売買価格、売笑価、売笑価と米価との比較、売笑価の比較——結語

第7巻

年中行事

北野博美著/昭和8、10年/年中行事刊行會

【内容】年中行事研究、年中行事資料、年中行事参考書目解題(菅竹浦)